

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「素材に秘密 人気エコバッグ」
- 2) 「木質ブロック新素材」
- 3) 「増えるご当地バーガー」
- 4) 「トランス脂肪酸『ノー』」
- 5) 「携帯電話向けダイエット支援サービス」
- 6) 「がん登録」

---

**1) 「素材に秘密 人気エコバッグ」**

ミラノの老舗カバン屋が、幾何学模様のカラフルなショッピングバッグを発売した。素材がなんとぞうきんなので丈夫で水に強く、飽きたら本当のぞうきんになるエコバッグ。おしゃれなモノグラム柄にも見え「見た目も可愛い」とショッピングのほか、プールやビーチ向けとして若者に人気だという。

エコバッグを数多く所有する人が増え、普段使いのカバンとして持ち歩く人も増えているので、飽きから行き場をなくしたものが問題視されているが、素材などのひと工夫で最後まで使い切ることが出来る。無駄がないことが好感を得ているようだ。

---

**2) 「木質ブロック新素材」**

自動車部品検査器具メーカーのネイブ（石川県加賀市）は従来の合成木材より安価で、リサイクル可能な「木質ブロック材」という素材を開発した。

自動車部品などの新製品開発で使う「デザインモデル」などの材料として自社で利用する。建材としても販売し、収益源の多角化も狙う考えだ。

この木質ブロック材は間伐材などの木くずを微粒子レベルに細かく粉砕し、乾燥してから微量の有機性樹脂材料を混合。プレス機で成型して完成する。5年がかりで開発した。

新素材はほぼ100%木質で、回収すれば再利用可能。価格も合成木材より2-3割安いという。石川県が8月末に愛知県豊田市で開くトヨタ自動車グループとの商談会で提案する。

物価高騰のなか各企業が業界の垣根を超えて新しいものを生み出している。抜本的に製造から見直すことで、新たなものが安価で販売できるのは企業の強みになる。

### 3) 「増えるご当地バーガー」

低予算でまちおこしができるとして、ご当地バーガーが各地でひろがっている。佐世保バーガーの一大ブームを起こした佐世保では、PR 事業が功を奏し、観光客が増えている。

佐世保に続けと、自治体や商工会が地元の特産品や駆除した害獣の肉をパンに挟んでご当地バーガーづくりに取り組む。厳しい財政事情でハコモノが作れずイベントも開けない団体が目をつけたとみられている。

例えば、今春、特産の小倉牛や関門タコを使った「関司港レトロバーガー」を売り出した北九州市観光協会。ラーメンやカレーと違い、包装するだけで提供できるので既存の設備で事足りる。

さらに、「食の安全・安心」への関心の高まりも追い風で、地産地消を唱ったご当地バーガーには消費者から見て安心感がある。

ある調べによれば全国に 100 種類ものご当地バーガーがあるようで、健康志向を反映した「お魚系」、地元食材の「丸ごと系」、生態系を乱すブラックバスや農産物を荒らすエゾジカなどを使った「厄介もの系」とに大別される。

このような気軽なまちおこしは、無駄な予算を節約できる上、観光客も訪れた先々で様々なご当地バーガーを味わう事で地元の魅力も理解でき、非常におもしろいのではないかと思う。

---

### 4) 「トランス脂肪酸『ノー』」

米カリフォルニア州のシュワルツネッガー知事は 25 日、トランス脂肪酸を含む食品を州内の飲食店から追放する州法案に署名し、同法が成立した。

トランス脂肪酸とは、植物油などを加工するときに主に生じる物質。

マーガリンや揚げ物の油、ショートニング等だが、心疾患や脳卒中のリスクを高める恐れがある。ニューヨーク市などが事実上禁止しているが、州レベルでは初めてだ。

今回の州法により、同州内の飲食店は 2010 年以降、トランス脂肪酸の削減を進め、ゼロにすることが義務づけられている。2011 年にはトランス脂肪酸を焼き菓子やパンなどに使う事も禁止される。

アメリカでは既に大手ファーストフードチェーンが、トランス脂肪酸ゼロの食品を増やしている。日本ではまだあまり認知されていない成分だが、昨今のメタボリックシンドローム対策や、アメリカの後を追うような肥満人口の拡大によって、これから関心が高まるだろう。

---

### 5) 「携帯電話向けダイエット支援サービス」

NEC ビッグロブ株式会社は、友達とダイエットの進捗状況を競い合いうなど、ゲーム感覚で楽しみながら、ダイエットの継続を支援する新しい切り口の携帯電話向けサービス「みんなダイエット」を無料で提供する。

このサービスは、ダイエットの成功に必要な“継続性”を重視し、「楽しめること」「手軽にできること」を中心にダイエットの継続を支援するもの。ゲーム感覚で楽しめ、友達と刺激し合える仕組みにより、1人では難しかったモチベーションの維持を可能にしたほか、食事や運動履歴の手軽な管理を実現している。また、ヨガ、料理、表情筋トレーナーなどの7人の専門家が、手軽に実践できるダイエット情報“お手軽ダイエットナビ”を日替わりで提供。

忙しい人や、負荷の大きな運動はしたくないという女性向けに、毎日の生活に無理なく取り入れて実践することが可能で、単に痩せるだけではなく心身ともに美しくなることを目的としたメニューを提供する。

携帯電話向けに提供することで、時間や場所を選ばずに利用できる生活に密着したサービスを実現し、日々のダイエットをより効果的なものになるよう支援する。

食・生活者の健康管理といえば、スーパーの得意分野。システムの可能であれば、スーパーでも企業ごとに取り入れてはどうだろうかと思う。ダイエットはもちろん、糖尿病の管理食や離乳食など、個人にあったメニューの提案を携帯に送信すれば、店に来てもらう理由ができ消費者も買い物がラクになりそう。

<http://keitai.biglobe.ne.jp/info/diet/>

---

## 6) 「がん登録」

かつてほどではなくなったが、今でも恐れられている病の一つであるガンだが、対策に肝要なのが統計情報だ。毎年どのくらいの人がかかり（罹患数）、生存率はどのくらいか、地域や病院によって差があるのか。これらの統計は『がん登録』という仕組みで集められている。

1929年、ドイツで制度化され、60年代には国際学会ができた。日本でも宮城や広島で50年頃始まり、現在（2008年3月）では35道府県1市で実施されているが、現在のがん登録では法律で義務化されていないため登録法がバラバラで、国全体で罹患数や生存率を確認することができていない。

効果的ながん対策を行うのに正確な統計情報は不可欠だ。個人情報保護を徹底しながら情報を把握しなければならない。国としての取り組みも今後検討していく必要があるかもしれない。